

ゆっくりではあるが、マイペースでしっかり歩いておられる。しばらく一緒に歩いたり、休んだりして、先生から貴重な水を恵んでもらい、本当に命拾いをしたような気がした。

5時少し前に前杖差岳に着き、少し元気を出して、午後6時ようやく杖差岳に到着した。

小屋に着いて、先着の人達が遠い水場から汲み上げてくれた冷水のうまかったこと。

8月6日、朝食後、小屋周辺を散策する。

よく晴れて、雄大な景色と咲き乱れる高山植物を堪能した。9時半ころ、もう一泊する先生と杖差岳山頂で別れを惜しんで下山を開始した。わざわざ見送りに来てくれた、高橋さんとも池の所で別れ、観察しながら、ゆっくり下る。登りもつらかったが、下りもつらく、一歩ごとに暑さが増す。休んでばかりいたので時間がかかり、幕営地に戻ったのは、なんと6時半、すさまじい虻と蚊の襲撃が待っていた。

8月7日は車で大石ダムまで下り、歩いて西俣川に向かう。トンネルの入口で、“大したもん蛇”をしばらく見学した。登山の疲れともものすごい暑さで、日陰を探して休んでばかりいた。ようやく目的の黒手沢に入ったが、すぐ滝に阻まれてしまい、ここで大休止（昼食）して引き返した。（軟弱だ！の声あり）

5時ころテントに戻り、すぐ道の駅の温泉に行った。6時すぎにテントに帰ったが、丁度そこへ尾崎先生と高橋さんが到着した。

先生は疲れた様子ではあったが、お元気で杖差岳の最高峰登山者（75～76才）として全員の拍手で迎えられたのであった。

本隊は猛暑に耐え切れず、8月8日、朝食後、早ばやと解散した。（参加者のべ14名）

じねんじょ会にとっては集中豪雨と猛暑に苦しめられた杖差岳だが、先生にとっては何回も登り、特に思い入れの強い山であったように思われる。その山へ、高橋さんの献身的なサポートがあったとはいえ、ご高齢にもかかわらず自分の足で登られたことに執念のようなものを感じた。山頂で2泊して心ゆくまで飯豊の山々を眺め、咲き誇る花々を写し、さぞや満足されたにちがいない。

今も、先生は杖差岳のお花畑をニコニコと散策されているような気がしてならない。

尾崎先生、ありがとうございます。

あまりにもお世話になった尾崎先生

関 繁 雄

私の家は越後線寺尾駅のすぐ近く、先生のお宅は西小針

台で、歩いて10分程の距離だった。よくお宅にもお邪魔してお世話になった。

じねんじょの観察会の時は先生の車に乗せて戴くことが多かった。そもそもじねんじょ会に入会させて戴いたのも、石沢先生にお願いして理学部に内地留学できたのも先生のお力添えのお蔭だった。

尾崎先生との思い出は一杯ある。何をどう書いて良いか分からない程だ。

今、新潟から遠く離れていても、私が植物について一生の関心ごとでいられるのも、その切っ掛けは尾崎先生との出会だった。先生のお蔭で石沢先生、池上先生、関省吾先生、牧野先生はじめすばらしいじねんじょ会員の方々にお逢いできたのだ。

先生とのお付き合いの始まりは昭和47年。私が柏崎より新潟市の県立新潟養護学校はまぐみ分校に転動して、四年後だった。当時私は新潟の自然は、お寺や神社の境内に残っているのではないかと思って、寺社林の研究をしていた。

だが難点は植物の同定に自信がなかった。

誰か良い方がおられないかと、学校の同僚に尋ねた所、市の宮浦中学校に尾崎先生という方がおり、たいへん植物に詳しいとのことだった。

早速電話を入れ面会を申し込んだ所、快く承諾下さり、私の悩みを聞いて下さった。終始笑顔を見せながら。話の中で先生が西小針で、拙宅に近いことも判り、また吃驚。

次に116号線が出来た頃の頃、ホンダオートの旧店で出逢った。先生が軽の自動車を買われ、社長の藤井さんと親しかったからだ。判らない標本やら、大急ぎでまとめた市内神社林を持参した。先生はそれを見られ、「もしこれを続けられるなら「じねんじょ会」に入って研究された方が良いと思うし、新潟大学理学部に石沢先生という若い優秀な先生がおられるので、内地留学をしたらどうですか、もしよろしかったら、石沢先生とはじっ懇の仲なのでお願いして見ますが」と薦められた。

また池上先生を頂点とする「じねんじょ会」の素晴らしさをも宣伝された。私は小踊りして喜んだ。ウンもスンも無かった。内地留学と「じねんじょ会」入会をお願いした。

こうして二つが実現した。内地留学では石沢先生に初めて理学部の研究室でお逢いした。

市内の寺社林のまとめを持って、先生は内留を承諾して下さい。先生といろいろお話をした。池上先生の素晴らしさを話されたこと。それから即物の変容。例に太平洋側のニシキギが日本海側になるとコマユミとなって翼が無くなると話された。ナルホド、ナルホド流石大学の先生は研究が深いと感心した。

尾崎先生はそのうちに家を改築された。素晴らしいお宅になった。応接室は素晴らしく、冷暖房が備わり、ふかふ

かとしたソファ、しょう洒な机、オーディオの装置などもあった。

時々訪れては植物の他に写真（コンクールによく優勝された）を見せて戴いたり、音響を鑑賞したりした。そんな時奥さんが出てこられ美味なお菓子…お茶席用…を頂戴したものだ。奥さんはお茶のグループに入られていて、出向いた先の風土豊かな、しかも品の良いお菓子を手に入れられる。それのお裾分けだった。

先生はクラシックを愛好された。とくにオペラのエリア。だが特に好きはなかったようだ。ドイツリート…特にシューベルトの「冬の旅」を愛好された。時々ラベルの「亡き王女のためのパヴェアーヌ」を口ずさまれていた。日本の歌手では鮫島有美子の童謡を愛された。牧野恭次先生とお伺いして拝聴したものだ。

先生は旅行を好まれた。とくに退職後は最愛の奥様と世界中を巡ぐられ、植物行脚された。

まず王者、英国の王立キュー植物園。オランダのキューケンホフ植物園。スリランカのペラデニア植物園。インドネシアのボゴール植物園などである。撮られた写真を見せて戴いた。

他にタイ・中国雲南省・オーストラリア・ニュージーランド・ギリシャ・チリなど各地・ギリシャではシクラメンの原種、チリでは南極ブナ！ヨーロッパブナと比較されて。

先生の好奇心と財力と体力には感嘆させられたものである。

さて私の植物では新潟県文化財調査年報の「蒲原低地帯の植物」、むかご誌の「寺泊の内陸側植物」では同定・学名で大変ご厄介になった。「鳥屋野潟植物調査報告書」では先生を指導者として多くのじねんじょ会員の方々と長期間調査をし、報告書を作った。楽しい作業だった。

他先生とご一緒した調査は、大毛無山・苗場山・飯豊山・朝日・佐渡・山北・清水峠・妙高・火打・焼山・海谷等々と一杯だ。ご一緒に連れて戴くことが多かった。

他に佐潟・五泉のチューリップ園、こちら神奈川県に来てからは、小田原市のベゴニア園など奥さまと同席させて戴くことも多かった。

とにかく私の一生の中、最もお世話になった先生であった。

尾崎先生から自然保護行政で お世話になったこと

平 慎 三

植物同好じねんじょ会の現地調査にはほとんど参加してこなかった私には、故尾崎富衛先生（以下、本稿では「先生」と申し述べさせていただきます。）とは、私が担当した新潟

県の自然保護行政の仕事で、大変お世話になったことが最も大きな思い出として残っています。その一部を書き記し、先生の自然保護の部門での沢山ある御功績の一端ですが御紹介させていただきます。ここに、先生に改めて深く感謝申し上げますとともに、心より御冥福をお祈りいたします。

1 『にいがたのすぐれた自然』（第1集）の策定

私が県庁の生活環境部自然保護課に赴任したのは昭和56年4月でした。その時の私に与えられた業務の中で最も大きなものは『にいがたのすぐれた自然』の策定と小松原湿原の全区間での木道設置の設計・予算要求の仕事でした。前者は、「自然環境保全指導資料」の策定事業という事業名で、私の前任者の保科孝且氏（現新潟県森林研究所長）が担当者として企画・立案をし新規予算を実現し、2年目から私が引き継ぎ担当したものです。全体の予定は、昭和55～57年度の3カ年で、植物、動物、地形・地質の3部門の構成で、調査から執筆、刊行を行う計画でありました。

同事業の推進では、自然環境保全指導資料策定委員会が設けられましたが、植物部会は当時県自然環境保全審議会委員に就任されておられた故池上義信先生を筆頭に、石沢進、尾崎富衛、西山邦夫、丸山吉夫、相沢陽一、松井浩の全県下のリーダー格の各先生方からお願いをしました。故池上先生からは、全体の企画・構想から成果品の構成まで大きな立場から御指導を賜り、また石沢先生からは特に取り上げる対象の選定や自然保護上の評価、まとめ上げるスタイルなど具体的な御指導を頂きました。

これらの調査研究スタッフのなかで、先生からは、調査期間全体での植物部門の運営・調整等に直接あたる行政側との窓口役として、大変な労をとって頂きました。

この『にいがたのすぐれた自然』の策定は、次の点などから、調査研究上の高度な判断とともに膨大な労力と作業を要するもので、実は大変な仕事であったと記憶しております。

- ① 学術上及び自然保護上重要あるいは貴重な植物を、今までの研究知見を含めて、全県レベルで網羅し、初めての本格的な自然環境保全・保護等の基礎資料を作成する。
- ② 地域、群落、種のそれぞれのレベルで、極めて多数の対象をリストアップし、作成した選定基準に基づきそれらの評価・検討を綿密に加えながら、調査箇所及び成果品での登載対象を決定する。
- ③ 執筆、とりまとめでは、学術レベルを維持しながら、わかりやすく解説する形とするため、文面構成の項目やまとめかたについて、協議を重ねて定めてゆく必要があった。
- ④ この種の事業は、国・他県では前例はなく、企画、調